

災害に備えていますか？

南海トラフ地震に備えて今できること

南海トラフを震源とした巨大地震が、今後30年の間に60%～70%の確率で発生すると言われています。総社市は震度5強から6弱の想定。岡山県で1200人、四国4県では9万5500人の死者が発生すると推計されています。地震に備え「今」できる行動をとりましょう。

I. 災害用持ち出し袋を準備しましょう



- 【持ち出し袋の例】
- ・ビスケット、飴
 - ・飲料水
 - ・タオル、軍手
 - ・カッターナイフ
 - ・LEDライト
 - ・ゴミ袋

被災したときは、安全な場所に避難し避難生活を送ることになります。非常時に持ち出すべきものをあらかじめ詰めておき、いつでもすぐに持ち出せるようにしておきましょう。

II. 食糧や飲料を備蓄しましょう

- ・飲料水
 - ・マジックライス
 - ・クラッカー
 - ・飴
- ※高齢者や乳幼児など、避難する人に応じて内容を工夫しましょう



電気やガス、水道などのライフラインが止まった場合に備えて、普段から3日分の飲料水や非常食などを備蓄しておきましょう。

III. 災害時の避難場所や連絡先の確認を

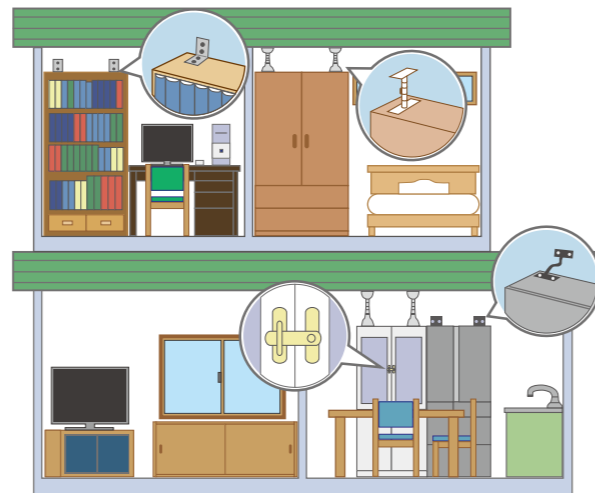
大規模災害時は、携帯電話などの通信手段が使えなくなることも予想されます。家族と落ち合う場所や避難場所を確認しておきましょう。

■災害伝言ダイヤル「☎171」を活用しよう

災害時に局番なしの「171」に電話をかけると、伝言を録音でき、自分の電話番号を知っている家族などが、伝言を再生することができます。

IV. 家具の置き方を工夫しましょう

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震などでは、多くの方が倒れてきた家具の下敷きになって亡くなったり、けがをしたりしました。地震が発生したときに備え、転倒防止対策を講じておきましょう



- タンス**
床側をストッパーなどで固定し、天井側はポール式器具で固定する
- 食器棚**
L字型金具やワイヤーなどで壁に固定し、開き戸には開かないように留め具を付ける
- 本棚**
L字型金具やワイヤーなどで壁に固定し、重い本は下の段に置く
- テレビ**
粘着マットを敷いて転倒を防ぎ、機器の裏側をワイヤーなどで壁やテレビボードに固定する
- 窓ガラス**
強化ガラスに替えるか、飛散防止フィルムを貼る

熊本地震への支援の輪 続々

震災発生以降、市には数多くの寄付が寄せられています。

市では熊本地震の義援金を受け付けています。受付時間は、午前8時30分から午後5時15分まで。市役所では、時間外でも宿直室で受け付けています。募金箱は次の場所に設置しています。

- ・市役所玄関
- ・山手出張所
- ・清音出張所
- ・西出張所
- ・北出張所
- ・昭和出張所




問い合わせ 危機管理室 (☎) 8599

5月17日現在
143張、
526人が
入居中



野口 健 Ken Noguchi
登山家。高校から登山を始め、25歳でチョモランマの登頂に成功し、当時の7大陸最高峰登頂最年少記録を樹立した。平成20年から総社市の環境観光大使として年に1度来総し、小学生と市内の清掃活動を行っている。



総社市×野口健 テントプロジェクト

被災者に安心と安らぎを

熊 本地震の影響で、車中泊を余儀なくされている人を救うため、総社市が主体となり熊本県益城町の総合運動公園内にテント村を設営しました。

このテント村は、総社市の環境観光大使で登山家の野口健さんからテントなど支援物資提供の申し出があり、総社市が現地の関係者らと協議のうえ設営したもの。4月23日には、「南海トラフ災害対応プラットフォーム」で連携する自治体などの合同支援チームで支援物資のテント145張とマット400枚などを積み込み、被災地に向けて出発しました。

翌日には、職員と野口さん、プラットフォームの合同支援チーム、ボランティアあわせて約80人が参加し設営。

被災者のなかには、長期間車中泊を強いられ、テント村への入居時に安堵で涙を流した人もいたとのこと。野口さんは、「山に登る人間として何ができたのかと悩んだ。テントのなかでゆっくり休んでいただきたい」と話しました。

今回の被災地支援には職員72人、市民ボランティア9人(5月17日現在)が携わっています。



テントを張る、総社市から参加した市民ボランティア